

環流



第188号 令和6年3月19日

<目次>

児童の活動：長橋小学校……………P1
 巻頭言：谷本 慎司校長……………P1
 研究指定校・団体研修発表会……………P2
 第13次研究 公開検証授業……………P3
 教育研究所情報：
 令和5年度教育研究所の歩み……P4



【開校100周年記念式典】↑
子どもたちは長橋小100年の歩みを呼びかけと合唱で表現しました。

【端末活用(6年生算数「対称な図形」)】↓
クロームブックを使い、個人で、小グループで、課題解決に取り組んでいます。



大正から令和へ 持続可能な社会を創るつながい

小樽市立長橋小学校長 谷本 慎司



大正12年に開校した長橋小学校が、今年度100年の大きな節目を迎えました。「子どもたちの思い出に残る100周年」を合言葉に、地域・保護者の方々と何度も協議を重ね、様々な協賛事業が企画・運営されました。

多くの方々に参列いただいた100周年記念式典、「子どもたちの歌声に感動しました」との声をいただきました。140名をこす地域の方々と子どもたちが素晴らしい音楽を堪能した札幌コンサート。記念品として学校に寄贈されたクライミングウォールは、設置・指導も地域の方がボランティアで行ってくれました。

100周年だからできる体験を子ども、地域の方々と共有することができました。

現在、学校現場ではデータやデジタル技術の活用によって、教育手法の変革を行う教育DXが進んでいます。キーアイテムである1人1台端末を使い、誰もが、「いつでも」「どこからでも」「誰とでも」オンラインでつながり、コミュニケーションをとることが可能となりました。一方で協働的な学びでは、地域での体験や人的交流などリアルな人間関係づくりの大切さも述べられています。

今年度、100周年協賛事業の様々な場面を通して、子どもたちが地域の人たちとふれ合い学んだことは、AI技術が発達する令和の時代にこそ必要不可欠な「つながり」だと改めて感じることができました。

令和5年度 「調査研究活動事業研究指定校・団体研修発表会」

令和5年度調査研究活動事業「研究指定校・団体研修発表会」が令和6年1月24日(水)に実施されました。各学校・団体の代表者が3分程度で研究内容や活動について発表を行い、お互いに共有することができました。各学校・団体の発表の主な趣旨等については次のとおりですが、詳細については後日研究集録という形で各学校等に配布されますのでご覧ください。



学校・団体名	指定	発表の主な趣旨等
稲穂小学校	推進校	特別支援を意識した「教師のかかわり」と「授業づくり」について研究を進めた。その結果、支持的風土が醸成され、落ち着いた学級経営ができるようになった。
花園小学校	推進校	授業の中で単元や内容を絞って「問い返し」の場面を設定し、子どもの思考を揺さぶるなどの指導や振り返りのタイムマネジメントについて研究を進めた。
山の手小学校	推進校	「自己成長を促すための個別最適な学びの実現」と「対話をつなぎ、学びを深化させる授業づくり」という2つの研究内容を設定し、研究を進めた。
潮見台小学校	推進校	「ゴールを意識して学びを進める力」や「友だちと考えを交流できる力」を基に、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の在り方について研究を進めた。
望洋台小学校	推進校	「小樽授業づくりの5つのSTEP!」のSTEP3に焦点を当て、「子どもが主体となった活動の工夫」と「子ども自身の学びの振り返り」について研究した。
桂岡小学校	推進校	「健康の保持推進を目指し、自らが生き生きと学ぶ子どもの育成」を主題とし、体育と食育の両輪で研究を進めた。食育では、保護者を対象とした講演会を実施した。
銭函小学校	推進校	「自分の考えをもち、学び合う子どもの育成」を主題とし、自分の考えをノートに書き、友だちと学び合いながら高めていく子どもを育てる指導の在り方を研究した。
高島小学校	交流校	「自分の考えをもたせる手立て」と「交流を通して思考・表現させる手立て」を視点とし、ICTや教材・教具を工夫して「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る研究を進めた。
奥沢小学校	交流校	「学びを確かなものにし、考えを広げ深める対話的な学び」を重点に据え、考えを伝え合うことで自信や理解を深められるような場の設定や、みんなが「わかる」「できる」ことを目指した全体交流の工夫について研究した。
桜小学校	交流校	子ども自らが学習方法を選択する場の設定や「伝え合う・深める・共有する」を意識した交流場面の工夫などについて研究した。
菁園中学校	推進校	ルーブリック等を活用して子ども自らが学びを自己評価し、よりよい学びに向けて学びを修正・改善する場面の設定について主に研究を進めた。
北陵中学校	交流校	「先生ではなく、生徒に話させる授業改善」をキーワードに、対話的な活動の充実に向け「対話の目的やタイミング、方法」などについて研究を進めた。
西陵中学校	交流校	「課題探究学習」「授業におけるICT機器の活用」「まとめや振り返りの実施(アウトプット)」について重点的に研究を推進した。
小樽市算数 数学教育会	推進団体	『「個別最適な学び」の工夫』『「協働的な学び」の工夫』『「一体的な充実」に向けた工夫』を重点として、各会員が授業改善を進めた。
小樽市社会科 教育研究会	交流団体	目的意識をもって学習することを研究の重点とし、「みがき合いながら課題の追究が深まる学習の構成」を主とした研究授業を実践した。
小樽市複式 教育研究会	交流団体	「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を視点とし、子どもたちが主体的に学び合う授業や複式授業におけるICTの活用の仕方等について研究を進めた。
後志道徳教育 研究会小樽支部	交流団体	若手会員の増加を受けて、師範授業を実施し、教材分析の方法、中心的な発問の在り方、ICTの活用について協議した。授業者による児童観・教材観・指導観の在り方について研究を深めることができた。
小樽市学校 体育研究会	交流団体	1人1台端末の利用による自己評価と映像分析など子どもの主体的な活動を通して、子ども自らが改善し、学びが深められるよう研究を進めた。
小樽英語教育 研究会	交流団体	大学教授を招いて研修を行い、指導の具体を交えた内容が参加者の大きな学びとなった。3年ぶりにALTの協力による英検対策講座を開催し、受講者から好評を得た。

第13次研究2年次「公開検証授業」を実施しました

今年度、教育研究所の研究主題解明に向けた検証授業は、今年度所内2回（西陵中佐藤冨研究員～1年生国語）、潮見台小平口山立治研究員～3年生算数）、全市公開1回（松ヶ枝中八柳圭介研究員～1年生数学）実施しました。

この度は、令和5年12月5日（火）に松ヶ枝中学校で行われた全市公開の授業について紹介させていただきます。なお、本授業と所内検証授業の詳細については研究紀要第49号に掲載されておりますので、ぜひご高覧ください。

【八柳研究員の検証授業について（松ヶ枝中学校1年生：数学）】

1 単元名 1年生 数学「空間図形」 5/18時間目

2 研究内容

(1)【研究内容1】個別最適な学びの工夫

①視点1：子どもの学習進度や学習到達度に応じた指導方法の工夫

○教科書の内容を教え込むのではなく、ICT機器を使って身近な生活空間と比較することで、自ら空間図形の性質や関係を捉えさせたい。また、少人数で活動させることにより、それぞれの進度に応じて学習を進めさせる。

②視点2：子ども一人一人が自らの学びを発展させたり、探究したりする学習を位置付けた指導方法の工夫



○ICT機器の中でも特にデジタル教科書を活用することにより、前時までの既習事項と現在の学習内容を対比し、振り返りながら学習を進めていけるように指導していきたい。その一方で、デジタル機器に依存しすぎると、ノートに授業の記録が残らなくなってしまうので、要点をまとめたプリントを貼るなどして家庭でも振り返りができるようにしていく。

(2)【研究内容2】協働的な学びの工夫

①子どもが異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出すことができる指導方法の工夫

○子どもたちが少人数で見つけてきたことを全体に交流する場面を設定することで、より数学的な表現を思考するような場面を設定したい。もし、数学的な表現を発表者が思い浮かない時には、全体からよりよい数学的な表現を出させるように促していくことで、直感的な理解から論理的に考察する力を身につけさせたい。

3 本時の展開（一部抜粋）

	学 習 活 動	教師との関わりと評価規準
導 入	<p>○本時の問題</p>  <p>○先生の家を建てている途中の写真を撮りました。 「家はきちんと建つだろうか？」</p> <p><予想される生徒の反応> ・建ちそう ・建たない ・この角度だけではわからない どんな情報があれば判断できそうだろうか？</p>	<p>・テレビに家を建てている画像を提示する。</p>
展 開	<p><平面と直線の位置関係></p>  <p>○課題</p> <p>建物の中にある4つの位置関係について調べてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人1組のグループを作る。 ・校舎内で平面と直線の位置関係と同じようになっている建物の写真を撮り、jamboardに貼り付ける。 <p>(小集団での交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮ってきた写真とデジタルコンテンツを見比べながら数学的な表現で位置関係を説明できるようにグループで考察する。(全体交流) ・テレビとクロームブックに校舎内の写真とデジタルコンテンツを2画面で映し出し、どの位置関係を見つけてきたのか数学的な表現を用いて説明する。 	<p>※研究内容1(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物を調べるときの手がかりとなる4つの位置関係を確認する。 ・クロームブック活用。 ・教室内で上手く撮影できた班に発表してもらおう。 ・10分間で校内でより多く直線と平面の位置関係を見つけ出してくるように促す。 <p>※研究内容1(1)</p> <p>※研究内容2(1)</p> <p>(思) 数学的な表現を用いて位置関係を説明しようとしているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ4つの位置関係が発表できるようにグループを調整する。
	<p>○まとめ</p> <p>建物の中にも直線と平面の位置関係がたくさんある。</p>	

教育研究所情報

令和5年度教育研究所の主な活動の歩み

教職員研修の充実にかかわる内容

- 1 研究員による教育研究の推進
 - 研究員会議を中心とした研究活動
(令和4年6月～令和5年2月, 9回の開催)
 - 検証授業の実施
(3回～小学校算数・中学校国語, 数学)
 - 研究紀要第49号の発行 (3月末90部発行)
- 2 調査研究活動事業の推進
 - 研究推進校・推進団体 (8校・1団体)
 - 研究交流校・交流団体 (5校・5団体)
 - 公開研究会・公開授業の実施
(13校・6団体)
 - 教育講演会・講習会などの開催
(4校・2団体)
 - 市外公開研究会・実践発表会等への参加
(2校3団体, 参加14名)
 - 研修発表会の開催 (1月24日)
 - 研究集録の発行 (3月末60部発行)
- 3 研修講座の開催
 - 環境教育研修講座『新版小学校理科教材おたるの自然(デジタル版)』を通して(R5.7.31)
(参加21名)
 - 公開検証授業会(R5.12.5)(参加25名)
- 4 所報「環流」の発行(6, 9, 12, 3月)各号100部程度作成(教職員へはデータ送信)
 - 第185号「教育研究所の活動について, 初任者・研究員の紹介」他
 - 第186号「環境教育研修講座等の紹介」他
 - 第187号「研究推進校の実践紹介:小樽市立山の手小学校」「第13次研究のすすめ」他
 - 第188号「調査研究活動事業研究指定校・団体研修発表会, 公開検証授業」他
- 5 研究図書及び資料の収集と整備, 活用促進
 - 教育研究資料目録 第13集の作成
 - 研究図書の購入 77冊
 - 研究図書の貸出 93冊
 - 指導案データの作成, 発行

教育活動の充実にかかわる内容

- 1 学力検査の奨励
 - 標準学力調査
小学校3・5学年2教科 1,165名
中学校2学年3教科 671名
- 2 社会科副読本の活用の促進
 - 小学校社会副読本「わたしたちの小樽」
・令和4・5年度版を小学3年生に配布
・活用の手引きを各小学校に配布
・令和6・7年度版の作成
- 3 理科教材の活用の促進
 - 新版小学校理科教材「おたるの自然」
・デジタル版の配信
・活用状況調査の実施
- 4 ふるさと学習の促進
 - 「教材『小樽の歴史』」
・小学5年生児童全員及び中学校に3冊配布
・活用状況調査の実施

教育相談の充実にかかわる内容

- 1 相談活動の実施
 - 相談件数 19件25回
(電話17件22回, 来所1件1回, メール1件2回)
- 2 スクールソーシャルワーカー(SSW)の支援
 - 対応した学校 小学校8校, 中学校8校
 - 支援の対象となった児童生徒 44名
 - 学校への訪問
要請訪問 5回
定期学校訪問 前期29校 後期28校
 - 家庭への訪問回数 7回
 - ケース会議の回数 6回 7件
 - 研修会, 会議等の参加
・SSW連絡協議会・SSW地域別研修会
・要保護児童対策地域協議会
・いじめ問題対策連絡協議会
・不登校対策連絡協議会 等

※上記の数値は令和6年2月末日現在を基本としています。

編集後記

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことにより社会の流れが変わり, 各学校では流行前に近づいた状況が見られるようになりました。本研究所においても, 流行前のように検証授業や研修講座を実施し, 多くの方々に参加していただきました。今年度も研究所の活動や各学校・団体の取組について所報等により紹介させていただきましたが, 今後も教育の潮流や本市の課題を踏まえ, 研究と情報提供に努めてまいります。